

もしも、りんくう公園で地震が起きたら
津波が起きたら！

津波避難の三原則

- ① 想定にとらわれない
- ② 最善をつくす
- ③ 率先し、避難する

1. 一番は我が身の大事 ~ まずは地震から身を守ろう

- ✓ カバンや両手で頭を保護して、倒れやすい自販機や園路灯、建物のガラスから離れましょう。
- ✓ 園路灯や建物など、上方からの落下物に注意しましょう。
- ✓ 橋や斜面などから離れ、広場に逃げましょう。
- ✓ 海のそばにいた場合は・・・
津波がくるかどうか分からない場合も、まずは海岸から離れましょう。

2. 逃げましょう

- ✓ 避難の情報を確認したら、1分・1秒を無駄にせず、直ちに避難行動に移りましょう。
- ✓ 携行品は必要最低限。財産の持ち出しはあきらめましょう。
- ✓ 歩ける場合は、原則、徒歩で避難しましょう。
- ✓ 海岸から離れ、高台をめざし、海岸線に対して垂直方向に避難しましょう。
- ✓ 海岸や川から離れ、より遠く、南海本線より東（山側）を目指しましょう。
- ✓ 避難の際は、大声で周囲の人たちに声をかけ、誘いあって逃げましょう。
- ✓ 遠くや高台までの避難の時間がない場合は、津波避難ビル等に一時的に避難しましょう。

3. 津波を知ろう

- ✓ 波浪は、風によって生じる海面付近の現象です。
津波は、海面の地形が上昇（沈床）することで生じ、海底から海面まで全ての海水がスピードのある巨大な水の塊となって沿岸に押し寄せる現象です。
- ✓ 津波の勢いが衰えずに絶え間なく押し寄せるので、沿岸での波の高さは、警報で発表された大きさ以上の高さまで駆け上がります（遡上高）。
- ✓ 海遡上高とは、津波が到達する標高のことで、気象庁の発表する津波の高さの1～4倍程度までになることが知られています。
- ✓ 津波のスピードは海が深い場所（水深5,000m）ではジェット機なみの速さ（800km/h）で進み、沿岸付近（水深10m）ではオリンピックの短距離選手なみの速さ（1秒に10m）で進みます。
- ✓ 遠くや高台までの避難の時間がない場合は、津波避難ビル等に一時的に避難しましょう。
- ✓ 沿岸付近では波の速さが遅くなるため、後ろから来る波に追いつかれ、波の高さはさらに高くなります。
- ✓ 津波は繰り返しやって来ます。忘れ物があっても、絶対に海には戻らないようにしましょう。

4. 津波警報と避難勧告について

- ✓ 津波の災害が予想される場合、地震発生から3分以内を目標に気象庁から津波警報（津波・大津波）が発表されます。
- ✓ 震源が陸地に近いと津波警報が津波の襲来に間に合わないことがあります。

	予想される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表	巨大地震の場合の表現		
大津波警報	10m超	巨大	◇沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ルなど安全な場所へ避難。 ◇津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れない。	◇木造家屋が全壊・流出し、人は津波による流れに巻き込まれる。
	10m			
	5m			
津波警報	3m	高い	◇ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難！	◇標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。
津波注意報	1m	表記しない	◇海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れる。 ◇津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしない。	◇海の中では人は速い流れに巻き込まれる。養殖いかだが流失し小型船舶が転覆する。

※ 気象庁パンフレットより